

程度の高い怒りを表す動詞（句）の意味分析

ゲキドスル，ギャクジョウスル，キレル，カンシャクヲオコス

馬場典子

1. はじめに

感情を表す「動詞および動詞句（名詞（句）＋格助詞＋動詞）」（以下「動詞（句）」という）は、「ある主体の中にある特定の感情が生起する」という事態を表す表現である。この事態はさらに「客観的事態を表すもの」と「主観的感情表出を表すもの」に二分される。前者は「太郎は怒（おこ）る・腹を立てる・激怒する・逆上する・切れる・かんしゃくを起こす」等がその例である。後者は例えば「ああ、むかつく！・腹が立つ！・頭にくる！」と表現する際の「ムカツク・ハラガタツ・アタマニクル」である。¹

本稿では最初に挙げた「客観的事態を表すもの」の内、特に「怒りの程度が高い」と思われる4つの動詞（句）「ゲキドスル，ギャクジョウスル，キレル，カンシャクヲオコス」を取り上げ²、テンス・アスペクト的観点からこれら動詞（句）の特徴を整理した上で相互の意味の違いを明らかにする。

2. 個別的分析の前に

分析対象語の個別的分析に入る前に、より妥当な語義の記述に向けて本稿での分析対象語（句）のような感情を表す動詞（以下「感情動詞」という）に関わる諸問題について整理しておく。

¹ 感情の直接表出表現である、「ムカツク・ハラガタツ・アタマニクル」の用法・意味の特徴については馬場(2001a)を参照。

² この4語（句）をグルーピングした経緯は以下の通りである。まず、怒りの動詞（句）を中村編(1993)を参考に17語（句）選出し、動詞（句）の性質、テイル形による報告性、人称性などを指標とし分類を行った。その結果、この4語（句）は観察記述的な性質を持つAグループの中でも副詞「ついに」と共起し、程度の高い怒りを表す点で下位分類された。詳しくは馬場(2001b)を参照。

馬場典子

2 - 1 . 感情動詞に関わる諸問題

2 - 1 - 1 . 「主体」の概念について

本稿では従来「主体」と言われてきたものを、「感情主 (= 感情を持つ主体)」と「報告者 (= 感情主の感情を観察して報告する人)」に分けて考察することを提案する。1人称主体の場合は、感情主も報告者も同一であるが、3人称主体の場合は、感情主と報告者は別になる。

2 - 1 - 2 . 4語(句)の性質について

本稿での4語(句)の基本形は「太郎はすぐかんしゃくを起こす」の様に他者の属性を表す場合や「家に侵入した犯人は、家人に見つかると逆上する」の様に一般的真理を表す際には用いられ得るが、一回性の事態を表す際には「テイル形」または「夕形」になる。

2 - 1 - 3 . テイル形に関する考察

< 1 > 従来 of テイル形の説明とその問題点

町田(1989:42)によると、感情動詞は、発話時点の感情の存在を表すためには常にテイル形を伴わなければならない「継続動詞」に分類されている。それでは本稿の4語(句)の3人称感情主の例を見てみよう。

- (1) 太郎はギャクジョウシテイル/?カンシャクヲオコシテイル/?キレテイル/ゲキドシテイル。³

「ギャクジョウスル, ゲキドスル」は町田の指摘通り「継続動詞」だが、「カンシャクヲオコス, キレル」は「テイル形」では容認度が多少落ちる。この理由として動詞の性質の違いが考えられる。つまり「キレル」は瞬間動詞、「カンシャクヲオコス」も瞬時性を表す動詞(句)(以下「瞬間動詞(句)」)というのである。このような瞬間動詞(句)で発話時点の感情の存在を表すには、以下の様に「夕形」

³ ?はその文の許容度が多少落ちることを示す。

にすれば落ち着きがよくなる。⁴

(2) 太郎はカンシャクヲオコシタ／キレタ。

この場合の「タ形」は過去ではなく「現在（または瞬間的な完了）」を表す「タ形」である（タ形については後述）。以上の様に、従来「継続動詞」に位置づけられていた感情動詞にも他の性質（ここでは「瞬間動詞（句）」の性質）を持つものも存在することがわかる。⁵

また従来のアスペクト的観点からは、「継続動詞」の「テイル形」は「その事態が継続する」ことを表すとされている。しかし本稿では、これまでの知見には見られなかった新たなテイル形の意味を提唱した柳沢(1994)の「報告性」を紹介し、「ギャクジョウスル、ゲキドスル」のテイル形について改めて検討したいと思う。

< 2 > テイル形の「報告性」（柳沢(1994)）

柳沢の「テイル形の「報告性」」の概念は金水(1989)の「報告」に基づくものである。よってまず金水の「報告」について簡単に説明する。

金水は、日常的対話で聞き手にある状況を知らせる行為またはその言表を「報告」と呼び、小説や物語などのないいわゆる「語り」とは区別している。その上で動詞「悲しむ」を例に挙げ、「悲しむ」が表す状況を「a < 悲しい > という心的状態、b 悲しげな表情や動作、c 「ああ、悲しい」などの発語行為」という3つの相の重なりとして捉え、その「報告」について次のように説明する。

「我々はaを直接知ることができない。しかし、b cは外部から観察可能である。（「山田はひどく悲しんでいた」または「山田はひどく悲しんでいる」という文で）報告されていたのは、bおよび/またはcということになる。逆に言えばb cが観察されれば「悲しんでいる（た）」と報告してもよい、ということである。」（同:125）（下線の括弧内は引用者による補足）。

⁴ 但し、瞬間動詞でも「鳥が死んでいる」「車が止まっている」のように結果の残存を示せるものはテイル形を伴うことができる。これに対して「キレル、カンシャクヲオコス」がテイル形を伴いにくいのは、事態の瞬間的な生起を焦点化した表現であるためと現時点では理解している。

⁵ 本文冒頭でも触れた「ムカツク」は基本形で発話時点の感情を表せる。これは動詞の性質上「状態動詞」に近いものである。詳しくは馬場(2001b)参照。

馬場典子

以上が金水の「報告」の概略である。金水自身は、ここでテイル形の機能について特に言及していないが、柳沢はこの記述に着目し、「直接知ることのできない<悲しい>という心的状態を外部から観察可能であれば「テイル」で報告できる」という「テイル」の意味（機能）は、従来言われてきたアスペクトの意味にはなかったのだと主張し、この「テイル」形に対し、「報告性」という意味を提案している。そして以上の金水の「報告」を踏まえ、テイル形を以下のように定義する。

【テイル形の定義】

- (3) 話し手は何らかの現象を観察している。
言表は観察結果の報告である。
言表は二次的な情報である。

柳沢は の「観察結果の報告」を、単に五感によって得た情報を述べるというだけでなく、観察によって得た情報を頭の中で処理した上で述べるということまでを意味する、つまり、テイル形は、言表が何らかの形で処理された二次的な情報であるということの意味する(同:171)（下線部は引用者による）のだとする。

以上の柳沢の記述を本稿での「報告者」を使って言い換えると、「報告性」を持つテイル形を使用するということは以下のように定義づけられる。

テイル形を使用することとは、報告者が観察の結果、「(頭の中で処理された情報を) 事態の成立が確実なもの」として報告することである。

< 3 > 「ゲキドスル、ギャクジョウスル」のテイル形について

本稿でのテイル形の使用に関する定義が定まったところで、改めて「ゲキドスル、ギャクジョウスル」のテイル形について考えてみよう。以下に(1)の例の一部を再掲する。

- (4) 太郎はゲキドシテイル / ギャクジョウシテイル。

これまでの考えを基に述べれば、報告者は「太郎がゲキドスル / ギャクジョウスル」という事態を観察し、その結果、その事態の成立を確実なものとして他者

に報告する際、テイル形を用いるということになる。そこには「事態の成立の確認 報告」という一定の時間の幅が必要であり、そのためには「怒りの生起の状態」の「継続性」が前提として必要なのである。つまり報告者は「他者の怒りの感情の生起」という継続している事態のある一定の時間を捉えて「報告」するのである。⁶

2 - 1 - 4 . 夕形に関する考察

前節< 1 >で触れた「現在を表す「夕形」」については町田(1989)に、「感情動詞に部分的に類似した性格を持つ「思考動詞」」に関する以下の様な記述がある。

「思考・信念」を意味する動詞の「夕」形は、思考や信念をもっていない状態からもっている状態への変化である。

- (5) a. 私は花子が美しいと思った。
b. あなたは花子が美しいと思った。
c. 太郎は花子が美しいと思った。(p.75) (下線は引用者による)

つまり町田は思考動詞「思う」の夕形を「そう思っていない」状態から「その様に思いが変わる」という「変化」として捉えているのである。また堀川(1991)もこの「夕形」を「現在を表す「夕形」」として説明していることから、本稿では町田の記述を感情動詞にも援用できるものとし、瞬間動詞（句）の夕形を「変化」を表すものとみなす。よって本稿の「キレル、カンシャクヲオコス」の「夕形」は「怒りの感情が生起していない状態」から「怒りの感情が生起する」変化の瞬間を捉えていると考えることができる。⁷

⁶ 心の中で「あいつまたゲキドシテ（イ）ルよ」等のような独自の表現も存在するが、この点についての考察は今後の課題である。

⁷ この「夕形」と「報告性」との関連性、および「テイル形の報告性」に関してはさらなる考察が必要であるが、現時点では「（怒りの感情の）報告」が可能であるか否かの観点より分析を行うことを主眼とし、ここでは夕形での報告を認めることにする。尚、過去を表さない夕形については山岡(1998)の分類も参照されたい。

馬場典子

3．個別的分析

本節では主に実例を通して各語の持つ意味の分析を行う。方法としては、2語(句)ずつを比較する形を取り、特に意味の異同を抽出するのに有効と思われる3組を紹介する。

3 - 1 . 「ゲキドスル、ギャクジョウスル」

まず「ギャクジョウスル」の例を見てみよう。

- (6) 佐々木死刑囚は一九七四年十月三十一日、市原市八幡北町の実家で、交際していた女性のことを悪く言われたことに逆上し、父親(当時六一)と母親(同四九)を登山ナイフで殺害、遺体を川に投げたとして殺人と死体遺棄に問われた。(1998.11.14『朝日』)
- (7) (「シーズ・ソー・ラヴリー」という映画のあらすじ)モーリーンを最初に愛したのはエディだった。彼女の妊娠に戸惑って三日も家を空けるような無責任なアル中男。しかし、その情熱は激しい。妻が飲み友達に暴行されたことに逆上して発砲事件まで起こし、精神病院に入れられる。(1998.4.2『朝日』)
- (8) (1999年5月2日、山梨県石和署は鹿目容疑者(56)を殺人未遂の疑いで緊急逮捕した。)調べによると、鹿目容疑者は二日午後六時半ごろ、境川村寺尾の空き地で、別居中の妻(四三)と乗用車の中で別れ話をしていた際、離婚を迫られたことに逆上し、車から降りて逃げようとした妻を、車ではねるなどして殺そうとした疑い。(1999.5.4『朝日』)
- (9) 調べでは、鳥山容疑者は、(中略)(三重県津市)三雲町小野江の路上で、津市白塚町の運送業の男性(四八)に借金の返済を迫られて逆上し、男性の顔を殴るなどして、一週間のけがを負わせた疑い。(1999.4.20『朝日』)

これらの例から「ギャクジョウスル」の誘因は嫉妬や憎しみなどであり、我慢していたそれらのものが何かをきっかけに押さえられなくなり、感情の制御(コントロール)が完全に利かなくなる、または精神的安定性を完全に喪失する状態

を表していることがわかる。また男女関係に関わることや怨恨を誘因に取ることも「ギャクジョウスル」の特徴である。そして一気に感情が激しく噴出し、過激な行為に及ぶ。実例を見ても殺人や傷害、脅迫など、怒りに伴う行為が常軌を逸したものが多し。また怒りの生起から行動に瞬間的に移っている感がある。

これに対し、「ゲキドスル」も感情の表出はかなり強く、冷静さは相当程度失うが、「ギャクジョウスル」ほど、完全に感情のコントロールが利かなくなるわけではなく、見境がなくなるわけでもない。また、「ギャクジョウスル」のように、嫉妬や憎しみなど、怨恨が誘因にはないと思われる。上で見たように「ギャクジョウスル」は言葉よりもまず行為に瞬間的に移ってしまういわば発作的な怒りの感情である。これに対し「ゲキドスル」は他者に対する要求や要望を述べる際、行動ではなく「言葉」でひどく罵ったりたしなめたりするイメージであり、この点が「ギャクジョウスル」とは異なる。以下の例を見ていただきたい。

- (10) (映画監督、画家、俳優、脚本家、音楽家という多才なピンセント・ギャロさんの父親は以前)⁸ 息子が俳優になることを知って激怒し、「鏡をよく見て見る。ろくでもない顔だろうが。俳優になるなんて夢みたいな話はやめて、まともな仕事につくんだ」と、こっぴどく説教した。(1999.6.21 『アエラ』)
- (11) 同会(共産を含む「名古屋・革新市政の会」)が元自民の梅村氏に合意を求めた「市長選挙メモ」。その中には、与党県議時代の発言などについて(中略)「長良川河口堰の予算に賛成し、消費税5%引き上げ反対請願に、反対したのは、誤った態度」などが。さらに「共産党に敬意を表する」ことを求めている。(中略)「こんなバカなものめるか」。梅村氏は激怒し、決裂を通告した。(2001.3.9 『中日』朝刊 p.39)
- (12) (モハメド・アリとアントニオ猪木が戦った「異種格闘技」の試合を取材した記者の話)私は試合前に、「ボクシングファンをあざむく茶番劇」という記事を書いた。猪木事務所のマネジャーが激怒し、「訴訟を起こす」と抗議が来たのを覚えている。(1999.2.21 『朝日』)
- (13) 梶原は自分を中傷する人間がいると激怒し、目の前で土下座させ、詫言状を書かせた。(1999.7.11 『知ってるつもり』)

⁸ 実例の括弧内は、引用者による補足である。

(10)では父親が、語調もかなり強く怒りの感情を生起させているが、説教とは言葉で諭すことであり、「ギャクジョウスル」の様に我を忘れてしまっただけの行為である。また(11)は、自分の過去の政治活動を自ら否定しなければならない文面などに同意できないという道義的な気持ちから起こる怒りである。(12)も「訴訟を起こす」という法的手段に訴えているが、このような行動を起こすには、怒りの感情を生起させながらもどこか冷静に対処する心理状態が必要である。さらに(11)(12)は共に怒りの感情が生起してから「決裂を通告する」までと、「抗議を起こす」までは瞬時に起こっているのではなく、(13)も「土下座させて詫言状を書かせる」までにはある程度の時間経過が感じられる。この点も「ギャクジョウスル」とは異なる点である。

例えば、会社で上司が部下の仕事の重大なミスに対して発する怒りの感情表現は、以下の(14)b.に示したように「ゲキドスル」の方が適している。その理由は、上司が部下を呼びつけて厳しく様々な注意をするのに、「ギャクジョウ」していても、感情のコントロールが利かなくなっているのであるから注意などできないはずであるし、上司として人間性にも関わってしまうことになるからである。

- (14) a. 上司が部下のミスにゲキドシタ。
b. *上司が部下のミスにギャクジョウシタ。

また、「ゲキドスル、ギャクジョウスル」の主体（この場合「感情主」「報告者」の両方共）には怒りの誘因および怒りによって取る言動を考えても、子どもは取りにくいと考えられる。

3 - 2 . 「カンシャクラオコス、キレル」

まず両語（句）の分析に入る前に、「キレル」の特徴について触れておきたい。「キレル」という語からは、「糸／ロープが切れる」や「しょうゆ／在庫が切れる」のような表現も想起され、よって「キレル」には多義性があると感じられるが、「キレル」の多義性については別稿に譲り、本稿では怒りの表現としての「キレル」に限定して考察する。では両語（句）の例を見てみよう。

- (15) (コソボ) キャンプでは毎日、けんかが耐えない。かんしゃくを起こす子どもや、数年ぶりに夜尿症に見舞われた子どもも大勢いる。(1999.5.2 『朝日』朝刊)
- (16) 囲碁は頭の体操になると思い、六十の手習いで始めたが、私の頭に老化が起こり、何回教えてもらっても遅々として進まないの、夫はかんしゃくを起こし、ときどき大きな声で怒鳴る。(1998.5.2 『朝日』朝刊)
- (17) 外見上は子どもたちは満たされているように見える。しかし実際は違う。子どもたちは、ほんとうのところは満たされてはいない。家庭で十分に満たされていないから、外で学校で落ち着かず、キレたり荒れたりするのだ。(1999.5.7 『朝日』)
- (18) (子供っばいわがママがエスカレートして暴れる「跳び蹴り妻」に耐えている夫からの投書で) 妻は数日から数週間おきにキレます。我が家は二世帯住宅で、一階に住む両親が孫をあやしにきたり、夕食のおかずを持ってきたりします。そんなささいなことが不満で、私に当たり散らします。(中略) 妻がキレると、四歳と一歳半の子供二人はおびえて一階に逃げていきます。(1999.1.13 『朝日』)

以上の例から、両語（句）に共通するのは、まず、主体（本稿でいうところの「感情主」）には、精神的に成熟していない子どもを取ることができ、さらに大人でも精神的に欠如した（(16)(18)のような）行動をとる場合は主体になり得る点である。

(15)の「カンシャクヲオコス」の例の主体は子どもになっているが、(16)の主体は大人であり、大声で怒鳴るという感情的な言動を起こしている。(17)の「キレル」の主体は子どもであるが、(18)の主体は大人であり、その言動は「夫に当たり散らす」という、やはり感情的な言動である。大人が主体になっている(16)と(18)を見ると、「囲碁の練習」や「一階に住んでいる義理の親が来る」という日常的なことが誘因で精神の安定に支障をきたし、その状態が瞬間的に噴出する際に「カンシャクヲオコス、キレル」が使われている。このことから、両語（句）には、怒りの感情の前段階としての忍耐は感じられない。よって忍耐ができない子どもでも両語（句）の主体（感情主）となり得る。

上の4例は相互に語（句）を入れ換えてもさほど違和感はないと思われるが、

馬場典子

次に挙げる例はどうだろうか。

- (19) 連邦政府機能を一部停止させたギングリッチ下院議長の行動を，ニューヨークの新聞はかんしゃくをおこした赤ん坊に例えて批判した。
(1995.11.22 『朝日』)

(19)では感情主が乳幼児になっている。乳幼児は自分の思い通りにならないことを言葉で表現できない代わりに，激しく泣くことによって表現する。その様子を「カンシャクヲオコス」で表現できるということは，「カンシャクヲオコス」が「自分の意志にそぐわないことによる不満」による怒りを表していると言える。怒りの誘因には元来様々な要因があり，不満もその1つではあるのだが，「カンシャクヲオコス」はその中でも「自分の意志にそぐわないことによる不満」を専ら誘因にと考えられる。また「キレル」にもそのような不満が誘因にあると思われるが，感情主に乳幼児のような年齢の極めて低い人を取ることはできない。その理由として，感情の生起に伴って取る行動がかなり過激であることが挙げられる。以下の例を見てみよう。

- (20) 私が若かりしころは問題を起こすのはいわゆる「不良」と呼ばれる，それと見てすぐわかる人たちであった。ところが最近普通の子どもが突然キレて[*カンシャクヲオコシテ]，平気で殺人を犯してしまうような重大な問題行動を起こしている。(『健康への道』 p.1)

上の例を「カンシャクヲオコス」で言い換えると容認されない文になる。このことから「カンシャクヲオコス」は過激な行動を伴わない怒りだということができる。しかし，「キレル」は必ずしも重大で過激な行動を伴う時だけに用いられるのではない。次の例を見てみよう。

- (21) (生活が完全に夜型で，朝食も抜いて登校して来る生徒に，養護教諭が「規則正しい生活をし，朝食はなるべく取る」ことをきつくいったが) その後もその生徒は相変わらずだった。母親が諭してもすぐキレル。母親は何度か学校に相談にきたし(以下略)(1998.6.12 『朝日』)
- (22) 熱は出ていないか，下痢はしないか，せきは，発しんは．．．と，母親が体調のことばかり気にしているうちに，子どもは，わがままで神経質，

すぐかんしゃくを起こし，落ち着きのない性格に育ってしまった例もある。（1999.5.12『朝日』）

(21)では「キレル」が頻度の高さを表す成分「すぐ(に)」と共起している。男子学生は、「母親に日常の生活態度について注意を受けるという家庭でよくある出来事」が誘因となり怒りの感情を生起させている。よって「すぐ(に)」と共起可能であると考えられる。またこのような場合、その直後に生じると予測される事態は、(20)の「殺人」のような重大なものではない。そして(22)の「カンシャクヲオコス」も「すぐ(に)」と共起し、生起の頻度の高さを示している。⁹ 以上のことから、「キレル」は場合によっては「カンシャクヲオコス」と同様、日常的に頻発する怒りにも用いられる表現であり、よって、「キレル」の意味領域は「カンシャクヲオコス」よりもより広範囲だと考えることができる。

また「カンシャクヲオコス」は、他者（3人称感情主）の感情を乳幼児から大人まで報告できることを確認したが、自分の感情を述べる際（つまり自分が「感情主」の場合）は、主体は大人しか取り得ない。つまり、こどもが自分の感情を表現する際には「カンシャクヲオコス」は用いられない（これはこどもがこの表現をまだ学習していないとも考えられる）。これに対し、「キレル」には次のような事例がある。以前、某ゲームメーカーのイベントで、参加者全員がもらえるはずの景品のカード（参加者のほとんどはこの景品を目当てに来ていた）が、数時間も待たされたあげくに、結局メーカー側の準備ミスでもらえなかったという事が起こった。その時、インタビューされた小学生の男子が、「ずっと待たされたのにもらえなくてキレタ。」と話していた。このように低年齢の子どもにも「キレル」は怒りの表現として使用されており、よって「キレル」は感情主にも報告者にも大人と子どもの両方を取ることが可能である。

⁹ 「すぐ(に)」は「頻度の高さ」の他に「先行の出来事（E1）と後続の出来事（E2）の間の時間が普通より短い」（國廣(1982:148)）ことを表す。このことを本稿の考察に即して考えると、「誘因となる出来事（E1'）から怒りの感情の生起（E2'）」までの時間が短いことを示していることになる。「カンシャクヲオコス、キレル」の双方が「精神の安定に支障をきたし、その状態が瞬間的に噴出する」性質を持っていることを本文で既に述べたが、それに加えて事態から事態への変化に要する時間が短いとも考えられる。

馬場典子

3 - 3 . 「ギャクジョウスル, キレル」

では最後に「ギャクジョウスル」と「キレル」を比較する。まず以下の例を見よう。

- (23) 栃木の中学生の事件に際して、ひとごとでないと思ったのは私だけでしょうか。冷静に見ればささいな言動に逆上し [キレテ] , 攻撃にうって出る。これは単に「生命の尊厳」を説くだけでは済まない事態です。(大学生20歳)(1998.2.1『朝日』)

(23)の例は、両語に互換性があると考えられることから、「ギャクジョウスル, キレル」は突発的に起こるという発作性を持つ点と、怒りの感情が生じた瞬間感情のコントロールを失い、相手に対して攻撃的な行為に及ぶ点が共通していると言える。では次の例はどうであろうか。

- (24) (=9)調べでは、鳥山容疑者は、(中略)(三重県津市)三雲町小野江の路上で、津市白塚町の運送業の男性(四八)に借金の返済を迫られて逆上し, 男性の顔を殴るなどして、一週間のけがを負わせた疑い。(1999.4.20『朝日』)
- (25) いくら過激な言葉で彩ったところで、「ライ麦畑でつかまえて」っていうのは、自分が思いを寄せる女の子を誘惑したプレイボーイに逆上するという、情けない男の話に過ぎない。
(『goo』<http://www.top.or.jp/~tonk/BUNREI4.html>)
- (26) 愛知県警などによると、野田容疑者は同居していた竜門さんを勤め先に迎えに行き帰る途中、別れ話などになり、かっとなり殺害したという。「自分の子どもは産みたくない」などと言われて結婚を拒まれ、逆上した。(1998.10.22『朝日』)

上の例は全て「キレル」に置き換えられるとはいいいにくい。また前節で既に見たが、「キレル」は必ずしも重大な誘因を取るとは限らず、「すぐ(に)」と共起し、頻発する怒りを表すこともできる。これに対し、「ギャクジョウスル」は「キレル」に比べ、「すぐ(に)」とは共起しにくい。つまり「キレル」が日常的なこ

とを誘因に取ることができるのに対して、「ギャクジョウスル」は誘因が特定のものに限定されると思われる。

また以下の点は「キレル」だけに見られる特徴である。それは「キレル」が（「ギャクジョウスル」だけではなく、「ゲキドスル」、「カンシャクヲオコス」とも違い）「日常語」として使われており、「キレル」と他の語（句）との間に文体差が感じられることである。例えば上の例（(24)~(26)）を「キレル」に置き換えにくいのは、「ギャクジョウスル」の方が新聞の事実を記述するにはふさわしい表現であるためと考えられる。また子どもが（他の語（句）を学習しているか否かという問題とも関わるが）「キレル」だけを頻用し他の語（句）はまず使用しないという点、逆に老年世代が使いにくい点の双方から考えても、「キレル」には「若い世代に頻用される」という社会方言的性質が含まれていると思われる。

5. まとめと今後の課題

本稿では「ゲキドスル、ギャクジョウスル、キレル、カンシャクヲオコス」を取り上げ、まず感情動詞に関わる諸問題を整理し、以下のことを確認した。

従来「主体」と言われてきたものを、感情主と報告者に分けて考察することを提案した。

まず4語（句）の共通点が「事態を描写する性質」であることを示した。その上で「ゲキドスル、ギャクジョウスル」は動詞の性質上、従来指摘のあった「継続動詞」であり、「キレル、カンシャクヲオコス」は「瞬間動詞（句）」の性質を持つものに分類されることを見た。そして柳沢(1994)、町田(1989)を援用し、発話時点の感情の存在を「報告」する際、「ゲキドスル、ギャクジョウスル」は「テイル形」で、「キレル、カンシャクヲオコス」は「タ形」で表すことを示した。

また個別的な分析では2語ずつを比較する方法を採り、各語の意味特徴を抽出した。考察結果をまとめると次のようになる。

「ゲキドスル」： <怒りの生起から言動に移るまでにある程度の時間経過が

馬場典子

ある><行為よりも強く言葉でたしなめる>

「ギャクジョウスル」:<感情のコントロールを完全に失っている><怒りの生起から瞬時に行動に移っている感がある><殺人・傷害など常軌を逸した行為に及ぶ><怨恨を誘因に取る場合が多い>

「キレル」:<感情のコントロールを完全に失っている><怒りの生起から瞬時に行動に移っている感がある><殺人・傷害など常軌を逸した行為に及ぶことがある><頻発する怒りにも用いられる><感情主および報告者に子どもから大人までを広く取る日常語>

「カンシャクヲオコス」:<怒りの生起から瞬時に行動に移っている感がある><自分の思い通りにならないことによる不満を専ら誘因に取る><頻発する怒りにも用いられる>

今後の課題は、怒りの表現と比喩との関連性の考察であり、また怒りと連続性が感じられる他の感情（嫌悪感や苛立ち）へ考察対象を広げつつ、テイル形の報告性を軸にした分析の枠組みの妥当性および分析対象語（句）のよりの確な意味記述の方法を確立してゆくことである。

実例採集

『朝日』 朝日新聞記事データベース(Digital News Archives for Library)

『健康への道』石田浩司(1999)『健康への道』「とある街角の出来事から」
No.71. 名古屋大学総合保健体育科学センター

『中日』 中日新聞

インターネット上で公開されているホームページ（検索エンジン'goo'による）
(URL: <http://www.goo.ne.jp>)

程度の高い怒りを表す動詞（句）の意味分析

馬場典子

参考文献

- 金水 敏(1989) 「『報告』についての覚書」 『日本語のモダリティ』(仁田義雄・益岡隆志編)くろしお出版 pp.121-129
- 國廣哲彌(1982) 「タチマチ・スグニ・キュウニ」 『ことばの意味3 - 辞書に書いてないこと』(國廣哲彌編)平凡社 pp. 146-153
- 馬場典子(2001a) 「怒りの直接表出表現「ハラガタツ, アタマニクル, ムカツク」の意味分析」(日本語教育論集) 『世界の日本語教育』第11号 国際交流基金日本語国際センター pp. 195-207
- 馬場典子(2001b) 「「怒りを表す動詞(句)」の分類とその特徴」 『日本語文法』創刊号 日本語文法学会 pp. 159-176
- 堀川智也(1991) 「心理動詞のアスペクト」 『言語文化部紀要』21北海道大学 pp.187-201
- 町田 健(1989) 『日本語の時制とアスペクト』アルク
- 柳沢浩哉(1994) 「テイル形の非アスペクト的意味 テイル形の報告性」 『森野宗明教授退官記念論集言語・文学・国語教育』三省堂 pp.165-178
- 山岡政紀(1998) 「感情表出動詞文の分類と語彙」 『日本語日本文学』8号 創価大学日本語日文学会 pp.(1)-(17)
- 辞書類 『感情表現辞典』中村明編(1993) 東京堂出版

程度の高い怒りを表す動詞（句）の意味分析